

ブロッコリー・秋冬どり（品種：グラウンドーム）

海匠農林振興センター

1 地区名（集団名）

旭市富浦地区（富浦地区土地利用調整推進協議会ブロッコリー生産者）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 7戸、1法人
- (2) 栽培面積 380 a
- (3) 収穫量又は出荷量 26.6 t（700kg/10a）
- (4) 出荷先又は販売方法 契約出荷及び市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	2～4回	6回
化学肥料（窒素分量）	7.2～14.4 kg/10a	14.5 kg/10a

4 事例のあらまし

旭市の富浦地区の水田は、経営体育成基盤整備事業により高度利用ができる環境が順次整い、平成19年度から一部の圃場で、水田裏作ブロッコリーの栽培が始まりました。ブロッコリー生産者では、初年度の販売試行により消費者の野菜に対する国産志向と安全安心志向に応じる必要性が認識され、翌20年度から意欲的にちばエコ基準のブロッコリー生産に取り組み始めました。

農薬の使用では病害虫の早期発見と適期防除により使用回数を減らし、施肥では後の水稲栽培に影響を及ぼさないよう追肥主体とし、ちばエコ基準を満たすよう有機質肥料を使用しています。

5 背景・動機

旭市富浦地区は平成13年度から平成22年度にかけて、経営体育成基盤整備事業により186haの圃場整備が進められており、近年水田の高度利用ができる環境が整い始めました。富浦地区土地利用調整推進協議会では、水田の裏作耕作を農業収益増加につなげ、安定的な農業経営が確立されることを目指して、関係機関と連携し、裏作ブロッコリーの定着と普及に取り組んでいます。

水田裏作のブロッコリー生産は、平成19年度から始まり、初年度の取組は、生産者7戸と1法人、栽培面積285 aでした。

栽培面では、品種比較により有望品種としてグランドーム（サカタのタネ）を選定し、栽培概要の情報交換から施肥では追肥主体で栽培できること、病虫害防除では除草剤を含めて4回程度の防除で生産可能であることが確認できました。

また、販売面では同市内の農業法人との契約販売を試行しました。国産ブロッコリーの需要が高いことが確認でき、さらに、消費者の野菜に対する国産志向と安全安心志向に応じる必要性への理解を深め、ちばエコ栽培基準に合ったブロッコリー生産に取り組む契機となりました。

平成20年度は、当初の予定では展示圃によるちばエコ栽培基準でのブロッコリー生産を実証するまでの計画でしたが、生産者の意気込みが高く栽培者全員で「ちばエコ農産物」栽培計画認証を受けました。生産者7戸と1法人、栽培面積380aで、ちばエコ農産物ブロッコリーの生産に取り組みました。



ブロッコリーのちばエコほ場



研修会の様子

6 栽培方法

(1) 土づくり

稲わらをすきこむことで、土づくりを行いました。

(2) 播種、育苗

128穴のセルトレイ育苗を行いました。

手動型セルトレイ播種機を共同利用して省力化を図りました。

防虫ネット展張により農薬の使用を減らしました。

(3) 施肥

次作の水稻への影響を考慮して基肥を施用せず、追肥主体の施肥としました。

施用量は窒素成分量で22kg/10aを目安とし、活着後、定植20日後、その3週間後をめどに生育状況に合わせて2～3回に分けて追肥しました。

ちばエコ基準を満たすよう、有機配合肥料を使用して化成由来窒素を14.5kg以内に抑えました。

(4) 定植

ベッド幅1mの高畦、条間45cm、株間45cmの2条千鳥植えです。定植作業の省力、効率化のために半自動移植機を共同利用しました。

(5) 病虫害防除

病害は予防散布、害虫は早期防除を基本として、農薬の使用を最小限に抑えました。

高畦で比較的疎植にしていることから病害の発生はほとんどなく、栽培環境にも助けられ農薬使用回数は少なくなりました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成20年 9月 6日
播種	8月23日
耕起	9月 8日
定植	9月28日
収穫開始	平成21年 1月21日
収穫終了	2月28日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
稲わら	平成20年 9月 8日	0.5t		
有機アグレット673特号 (6:7:3)	10月 4日	120kg	7.2kg	0kg
有機アグレット673特号 (6:7:3)	10月18日	120kg	7.2kg	0kg
追肥用S842 (18:4:12)	11月 7日	40kg	7.2kg	7.2kg
合 計			21.6kg	7.2kg

(イ) 病虫害・雑草防除等

使用農薬	対象病虫害	実施年月日
トレファノサイド乳剤	畑地一年生雑草	平成20年 9月27日
※ゼンターリ顆粒水和剤	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	10月18日
プレオフロアブル	ハスモンヨトウ、コナガ	10月27日

※ 印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

富浦地区土地利用調整推進協議会では水田裏作ブロッコリー栽培の定着と面積拡大を推進しており、水田の暗渠整備により裏作作付面積が拡大すると期待しています。

栽培面においては栽培圃場が新しいことから、現在のところ根こぶ病は問題になっていませんが、連作による発生が懸念されます。そこで、できるだけ連作を避けること、また機械を共同利用していることから、根こぶ病が発生した際には汚染土壌が移動しないよう配慮し、農薬だけに頼らない対策をとることとしています。

また、施肥では基肥を施用していないため、追肥のタイミングが遅れる圃場では初期生育の遅れが見られます。その対策としてセル成型苗へ液肥等で追肥を施してから定植することを検討しています。

栽培技術向上による安定生産を実現するとともに、当地区の水田裏作ブロッコリーの栽培体系の定着と普及を図り、栽培面積5 ha以上、ちばエコ産地指定を目指しています。